

在来作物の保全と活用を通じた農村振興の一手法

A Method of Rural Development by Conservation and Application of Native Crops

清水克志*
SHIMIZU Katsushi*

1. はじめに

在来作物は地域固有性の高い地域資源である。とりわけ山間部や離島では、近年まで自家採種による自給的農業が維持されてきたこともあって、在来作物が残っている場合が多いが、過疎高齢化の進行に伴う担い手の減少により、消滅の危機に瀕する品種も少なくない。貴重な地域遺伝資源である在来作物を保全することは喫緊の課題であると同時に、農村振興に活用し得る可能性を持っている。本報告では、「男爵」等の品種が普及する以前から在来種ジャガイモを作り継いできている山梨県丹波山村を事例として、在来作物の保存活動を糸口とした農村振興の方法について検討する。

2. 事例の概要

丹波山村は東京都心から西方約 80km に位置する多摩川上流水源域の村である(図 1)。中心集落は標高約 600m であるが、標高 700~800m にかけても小集落が点在している。冷涼で水田が皆無の同村では、斜面を利用した畑作においてジャガイモ(写真 1)がムギやソバとともに古くから重要な位置を占めてきた。同村は在来種ジャガイモの栽培が現在でも続けられている、わずか 20 地域のうちの 1 つである。

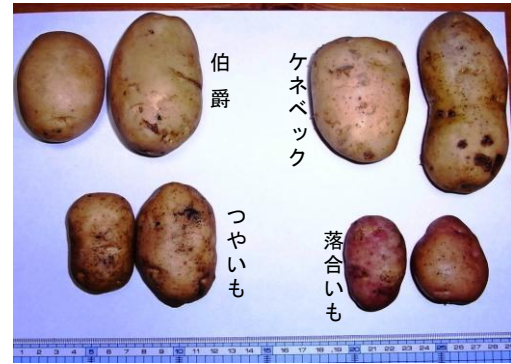


写真 1 丹波山村の在来種ジャガイモ
Native species potato in Tabayama Village

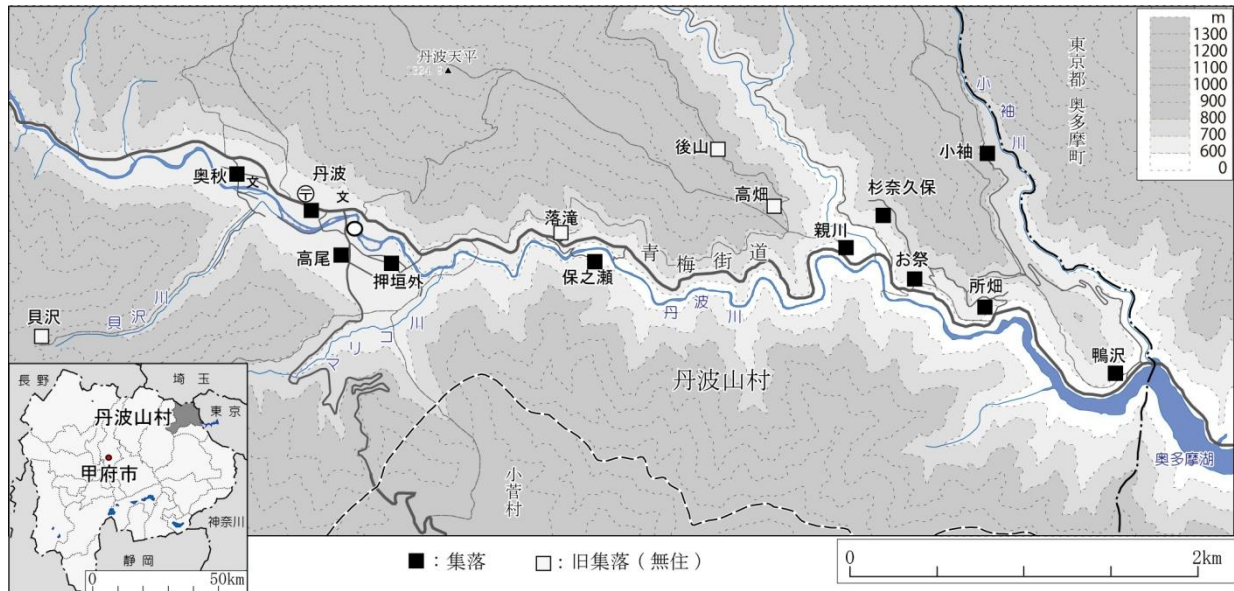


図 1 研究対象地域－山梨県丹波山村－
Study area－Tabayama Village, Yamanashi Prefecture－

*(独)農研機構農村工学研究所 National Institute for Rural Engineering,
キーワード：農村振興、在来作物、山梨県

3. 在来種ジャガイモ栽培の現状と保存への取り組み

2009年に実施した圃場悉皆調査により、丹波山村における在来種ジャガイモの生産農家数は23戸、生産量は、2品種(つやいも・落合いも)ともに、わずか

表1 丹波山村における在来種ジャガイモの栽培株数(2009年)
Cultivation number of native species potato in Tabayama Village, 2009

集落	農家	つやいも	落合いも	集落	農家	つやいも	落合いも	集落	農家	つやいも	落合いも
A	1	—	102	C	9	—	60	E	17	—	175
A	2	—	63	C	10	—	100	E	18	100	—
B	3	70	140	C	11	—	100	E	19	80	—
B	4	60	180	D	12	50	—	F	20	80	—
B	5	—	92	D	13	208	—	F	21	196	—
B	6	110	—	D	14	—	340	F	22	65	—
C	7	110	66	E	15	60	—	G	23	—	10
C	8	65	52	E	16	176	—	合計		1,430	1,545

(現地調査により作成)

1,500株程度であることが判明した(表1)。近年病気等の理由で離農した農家に加え、直売所の開設を機に粒の揃いが良い外来種へ品種変更した農家も少なくなかった。現在の栽培農家の大部分は65歳以上の高齢者世帯であることから、遠からず在来種ジャガイモの消滅が危惧され、対策が急務である状況が明らかとなった。

対策を講じる際、地域住民に対しては、表1のような負の側面だけを突きつけるのではなく、古文書や近代統計等の歴史資料の分析を行い、講演会やパネル展示を通じて、在来種ジャガイモの歴史・文化的背景や学術的意義を含めた「希少価値」という正の側面も合わせて提示した。その結果、地域住民が自らが暮らす地域の生活文化の価値を見つめ直す結果となり、これが同年12月には、地域住民の有志が結集した「丹波山村在来種ジャガイモ等保存会」の結成へと繋がった。

4. 考察

保存組織の結成による在来作物の保全活動は、先祖から受け継いできた在来作物の文化的価値を再認識し、地域遺伝資源を保全する以外にも様々な意義・効果を持っている(図2)。在来作物以外の地域固有の文化要素に対しても継承への意識が高まったり、組織活動への参加が集落機能の強化に繋がったりしている。2010年度には、耕作放棄地を活用した在来種ジャガイモの増産が計画されており、2011年度以降には、これを地域産業振興や都市農村交流の素材として活用する方策も検討されつつある。このように、固有性の高い地域資源である在来作物を対象とし、地域住民組織を主体として保全活動を行うことは、現代の農村が直面する諸課題を、複合的・相互連関的に解決し得る点において、農村振興のひとつの方策として効果が期待できる。

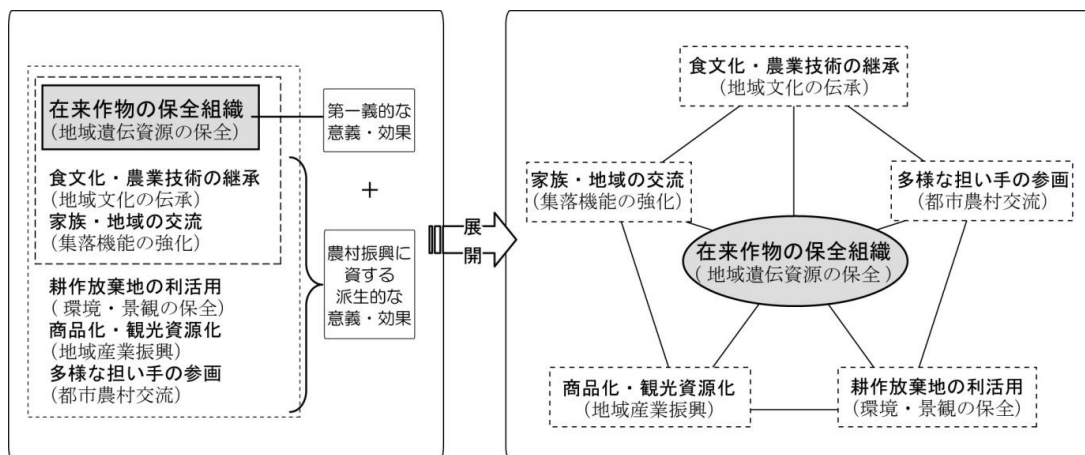


図2 在来作物の保全活動により期待される農村振興への効果

Effect on rural development expected by conservation activity of native crops